

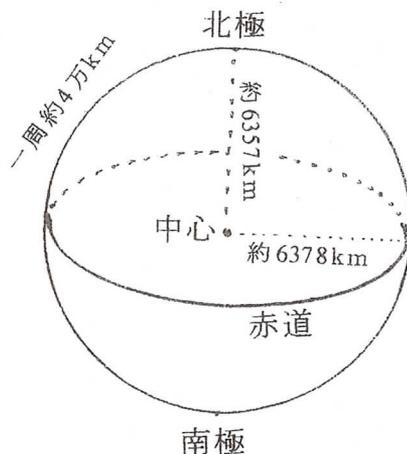
☆天文の基礎知識 ～地球の形や大きさ～

昼の太陽や、夜の星などを詳しく観察する時は、この地球の形や大きさなどをあらかじめ知っておくことが大事です。まず、形については、地球という言葉に「球」という文字が使われていることじだい「地球が丸い」ということを表わしていますが、数学で球面というのは、一点（中心）からの距離が等しい全てのところを集めた面のことをいいます。

確かに、地球の中心から地表のあらゆる点までの長さはほぼ等しいのですが、現在わかっている正確な値は下の図に示したとおりで、中心から赤道までの長さが、中心から極までの長さより約21km長くなっています。したがって、ミカンのように少し上下（南北）につぶれた形ということになりますが、21は6,378に対して0.33%くらいしかないので、一般的に「地球の形は球に近い」と言っても大きな間違いではありません。

また、大きさについては、赤道の1周が約40,075kmで、南極と北極を通る1周が約40,008kmですので、おおよそ4万kmと覚えておけばいいでしょう。

ところが、この地球の大きさも、地球から太陽や恒星までの距離に比べてあまりにも小さいので、太陽または恒星と地球の両端を結んだ2本の直線は、ほぼ平行とみなすことが多いです。



ぎんがうちゅうたんけんたい ★銀河宇宙探検隊 2023③

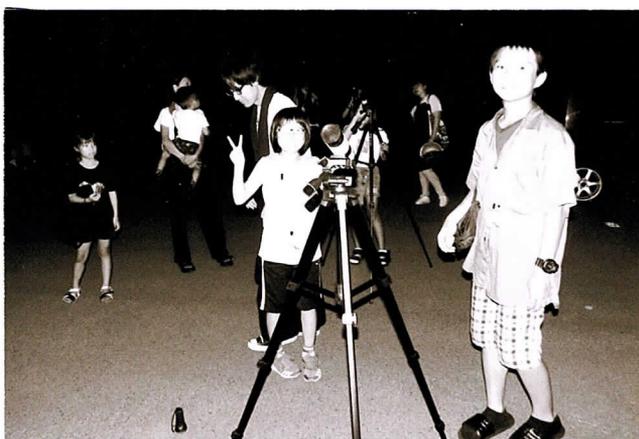
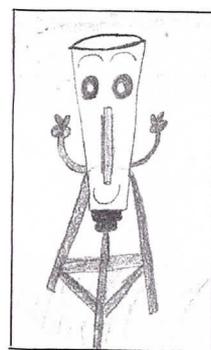
=月面たんけんとう星を見よう=

(親子でいっしょに参加)

はじめて親子いっしょでの「銀河宇宙探検隊」が8月26日(土)六郷公民館で開催されました。くもってカミナリがなかったので、パソコンで今日の星空や月面に見える月面人などのおもしろい地形、月にふたたび人間を送るアルテミス計画などを紹介しました。午後8時ころには天気も良くなってきたので外へ移動。小学生隊員が望遠鏡に導入した月や土星を、親のみなさんがよろこんで見てくださいました。

最後に、隊員たちが応募した“マスコットキャラクター・コンテスト”も行われるなど、子どもたちのふだんの活動を体験してみて、親子の会話もふえそうです。家でもいっしょに星を見てほしいですね。次回は十五夜に行われる「みんなでお月見」です。

マスコットキャラクター・
コンテストでグラブプリに
かがやいた黒石小学校4年
生の岡崎ひかりさんの作品



親子で見る星空観察にテンションもアップ